

平成23年度 事業評価（事業活動記録）

事業No. 78

政策体系	24	事業分類	施設管理費	所管部局	美山支所 地域総務課
会計	一般会計	科目	2. 総務費 - 1. 総務管 - 9. 地域振 現年		
事業名	地域振興関連施設管理運営費				
細事業名	南丹市美山農業振興総合センター管理運営費				
評価表作成者				美山支所 地域総務課	田伏 昌之

1. 事業の概要

観光拠点施設としての役割を担う農振センター周辺の維持管理経費を支出した。

2. 事業の目的と必要性

① 施策で目指す目標との関連付け

特産品の発掘、観光開発等による地域産業の振興を図るふるさとづくりの拠点施設として、都市住民等との心ふれあう交流を促進し、地域の基幹産業である農林業を活性化させ、地域内に点在する観光施設などに都市住民を誘導し、サービス分野の拡大を図ることを目的とする施設の管理運営。

② 事業を実施する必要性

地元の地域づくりの各種活動に活用することと、当該施設が道の駅美山ふれあい広場の一角にあり、市外向けの情報発信施設として重要であることから、維持管理を直営にしている。

3. 事業費の推移

	単位	平19決算	平20決算	平21決算	平22決算	平23予算	平24計画	平25計画
決算額または計画額	千円	12,562	9,484	9,229	9,486	9,753	9,350	9,350
うち一般職・嘱託職・臨時職の給与および共済費等	千円	0	0	0	0	0	0	0
財源内訳	使用料・手数料等	千円	0	0	3,762	4,072	3,740	3,000
	国・府支出金	千円	0	0	0	0	0	0
	地方債	千円	0	0	0	0	0	0
	一般財源	千円	12,562	9,484	5,466	5,414	6,013	6,350
職員等の従事人員	人/年	—	0.15	0.26	0.34			
人件費	千円	—	870	827	1,506			
事業費総額	千円	—	10,354	10,056	10,992			

※事業費を要しない場合は「0」、事業を実施しない場合は「空白」で表示。
 ※千円未満を四捨五入し表示しているため、合計等が一致しない場合がある。

4. 主な事業費の内訳

消耗品費	472,392円
光熱水費	6,143,753円
燃料代	443,991円
修繕費	164,380円
電話代	145,867円
汲取り料	264,242円
施設清掃委託料	1,044,632円
施設保守点検委託料	776,790円
近畿道の駅連絡会会費	30,000円

5. 事業結果の概要

適正な維持管理を行うことで、観光拠点として多くの利用者を迎え入れることが出来ている。

6. 活動の詳細

(1) その他		
2階会議室の使用回数：年間20回	4月1日～3月31日	・会議 ・地元グループによる趣味の活動 ・映画の上映
1階フロアでの各種団体や個人（地元）の方の写真や作品を一部展示することで、地元住民の表現する機会を提供できた。また、道の駅ふれあい広場の敷地内のため、観光案内展示としても利用。	4月1日～3月31日	・景観写真絵画コンクールの展示 ・地元住民等による作品展 ・道の駅スタンプラリー等

7. 所属長評価〔平成20年度から改善した点、今後の展開など〕

美山農業振興総合センターは、道の駅「美山ふれあい広場」内に位置し、周辺の施設管理団体と「道の駅連絡協議会」を設立し、本館をはじめ駅施設の適正な管理や観光入込み客の利用促進を図っている。
本施設は、地域の観光案内をはじめギャラリー展示などで集客を図っているが、入館客のいっそうの増加をめざし工夫と改善が求められる。
良好な管理と経費節減のために、指定管理者制度への以降を引き続き検討する。

【参考】過年度の評価

■平成22年度の所属長評価

道の駅「美山ふれあい広場」内の各施設管理団体等で同連絡協議会を結成し、本館を含む関係施設の管理体制や利用促進について協議した。道の駅として地域の総合案内機能を発揮しているが、入館者を増やすためのギャラリー機能の企画等に工夫が必要である。良好な管理、経費の削減等の観点から、指定管理者制度への移行についても引き続き検討する必要がある。

■平成21年度の所属長評価

- ①事業執行にあたり議論を重ねた点
管理経費の削減、指定管理への移行について検討した。
- ②当該事業のアピール事項
事務室の部分貸出により、道の駅としての観光案内の役割を担っている。
- ③反省点、今後の展開・方向性等
道の駅敷地内の複数の施設関係者が、総合的に連携できる組織づくりが必要である。